

# 小5国語 「協働で深める読解、ICTで広げる表現 —読む力を書く力へつなぐ学び—」



- ・共同編集による「本文理解の土台づくり」（語句の意味調べ／文章構成・要旨整理を、みんなのボードで共同編集し、理解の抜けを補完）
- ・資料活用の思考可視化と相互評価（集計で「必要／不要」判断を全体化、PDF共有＋コメントで待ち時間なく読み合い・良さを具体化）

## 活用背景・ねらい

小5国語「資料を用いた文章」を、読む5時間+書く5時間の計10時間で扱うため、従来の紙中心の授業だと、共有や交流に時間が取られ、資料の効果的理 解が浅いままで「書く」へ移りやすいという課題があった。そこで、読む学習は協働で資料と本文の対応・筆者意図まで捉え、書く学習は資料収集～構成～推敲を見通せる環境を整え、根拠に基づき表現を工夫することとする。

## 成果・効果

みんなのボードを用いた意味調べは82%の児童が「役立った」、協働学習による本文の読解は96%が「一人で学ぶよりもよかった」と回答。資料の「必要／不要」を個で考え、集計で全体化した取り組みは、85%が「資料の効果に対する考えが深まった」と回答し、読む学習を書く学習へつなげることができた。また、文章をPDF化してボードで読み合うことで待ち時間がなくなり、95%が「よかった」と回答。コメントを通して達成感や他者の良さを自身の学習に生かす姿が見られた。

## 授業・取り組みの流れ

### ① 読む：初発の感想の共有・共同編集での語句理解（1時間）

児童は本文を読み初発の感想を書く。マイボードで書いてからみんなのボードへ送らせてることで、全員の考えが同じ場で見える状態をつくる。また、児童は調べたい語句を出し合い、意味を共同編集で追記する。教師は「共同編集＝効率化ではなく、語句の網羅性を上げ、後の読解で根拠として使える共通資源にする意図で設計する。

### ② 読む：資料と本文の対応、資料の効果を協働で整理（3時間）

児童は文章構成や筆者の主張、本文や資料の読解を、それぞれ表にまとめながら捉える。教師はグループごとに共同編集させ、誤操作を防ぎつつ話し合える形にする。資料の効果について考えを深めるために、「絶対に必要／なくてもよい資料」を個で判断し、その理由を言語化する。教師は集計機能で分布を可視化し、多数派・少数派の根拠を比べて考えが深まるように全体交流を組む。

### ③ 読む：本文を要旨にまとめ、自分の考えを共有（1時間）

児童は本文の要旨と筆者の主張に対する自分の考えをマイボードで書いてからみんなのボードで共有する。良い点をコメントで具体的に伝え合うことで、個々の学びを深める。

### ④ 書く：資料収集～構成～読み合いで一貫（5時間）

児童は環境テーマを決め、自分の考えに合う資料を探す。資料から読み取れることをカードに整理し、必要に応じて参考サイトのリンクも残す。教師は「何をどう書くか」を事前に1枚のカードで整理させてから文章作成に入らせる。完成後はPDF化してカードに貼り、ボードで読み合う。題名から選んで読み、良い点をコメントで具体的に伝え合って、学びを次の表現に還元する。

①【読む】語句の意味調べ

「語句を読み取ってください」という指示が表示されています。各カードには複数の語句が記載されています。

②【読む】資料の読み解き、資料の効果

「自分の考え」欄には「必ず使いたい」と「どちらでもいい」という選択肢があります。各カードには資料の効果についての説明が記載されています。

④【書く】資料収集～構成

「海洋生物」のテーマで、児童が見つけた資料が表示されています。各カードには資料の内容や見つけ方などが記載されています。

### ④【書く】PDF化した文章